

高木ソーイング(有)

岡山県倉敷市下津井吹上1-10-25

TEL.086-479-8675 FAX.086-479-8665

(有)エラミ

TEL.086-479-8682

高木ソーイング(有)
代表取締役社長(有)エラミ
代表取締役社長

インタビュー

対
談

高木 塩見・高木 秀史× 阿藤 快

[俳優・タレント]



INTERVIEW W

SHIOMI TAKAKI・HIDESHI TAKAKI × KAI ATO

ジーンズ縫製の高度な技術を結集し、災害時に役立つ多機能デニムを開発

様々な工程を組み込んでジーンズを単なる作業着からファッション的な要素を持つアイテムへと加工してきたのですよ。その後、児島の縫製業者達が倉敷紡績(株)さんと共同でオリジナル生地を開発し、素材から縫製まですべてを国内で手掛けるメイドインジャパンのジーンズを誕生させました。そのプロセスに少なからずかわってきたのは誇らしいことだと思っています。



阿藤 岡山県・児島は国産ジーンズ発祥の地として知られています。本日はこちらで四十余年、ジーンズ縫製ひと筋に歩んでこられた高木ソーイング(有)・高木塩見社長と、ご子息で同社の開発した製品の販売を手掛ける(有)エラミ・高木秀史社長のお二人にお話を伺います。まずは高木ソーイング(有)さんのこれまでの歩みからお聞かせ下さい。

高木 児島は昔、足袋の製造が盛んな町で、その後、時代の流れと共に扱う品物が学生服そしてジーンズへと変化してまいりました。私が縫製業を始めたのは四十年前で、最初からジーンズに特化して事業を展開しています。当初ジーンズは生地をアメリカから輸入し、それをパターン通りにミシンで縫製していました。硬いジーンズ素材を石で洗って柔らかくするなど、児島では

阿藤 中国や東南アジアとの競合で国内の繊維業界は大変苦戦しているようですが、高木 そうですね。長引く不況で児島でも縫製業者が次々に廃業しています。でも、日本の縫製技術は世界一です。この高い技術が継承される限り、国内でジーンズ生産の基盤がなくなってしまうことはないと思っています。また、当社では三年サイクルで中国からも七十名程度の研修生を受け入れています。そのことによって技術が流出してしまうとは考えていません。世界へ日本の技術を広めながら生き残る道を探っていくことが大切なのではないでしょうか。

阿藤 伝統と技術を守りながら、一方で生き残る道を模索するのは大変かと思いますが、御社でこのたび開発された多機能デニムはデニムの新たな可能性を感じさせる商品だと伺いました。アウトドアや災害時に役立つものなんでしょうか。

高木(秀史) 商品名を『マルチファンクシヨンドニム』と言っています。(有)エラミが販売の一切を請け負っています。この商品は、一見一枚のデニム地のように見えますが、五つの機能を合わせて持っています。まず素材に付いている八カ所の取手に棒を差し込

むと病人やケガ人を運ぶ担架になります。円筒状にするので即席枕付きの寝袋として使えます。フラットに広げると避難所で必須の敷布になります。それを吊るすと避難などでプライバシーゾーンを確保できるパーテーションとして利用できます。そして附属ベルトで肩と腰を固定すれば防寒着に早変わりします。

阿藤 それはすごい。デニム素材がそんなに防災に活躍してくれるとは驚きです。デニムなので汚れてもすぐに洗えるのも嬉しいですし、防災意識の薄い若い世代も気軽に取り入れられそうですね。

高木(秀史) ええ、デニムの裏側を迷彩柄にするなど工夫して、若い人達にも気軽に手に取って頂けるデザインにしたいとも考えています。また、重量は約二・五キログラム、サイズは縦が一、九四〇ミリ、横が一、四二〇ミリと大きくしており、阿藤さんのように上背のある方でもゆったりと使って頂けると思います。

阿藤 そうした防災グッズのユニークなアイデアはどのような形で生まれたのでしょうか。

高木 私は昔から奉仕活動が好きで、以前から自治体主催の防災説明会などにも参加していました。そこで皆様が備蓄用品に何を準備すればいいか悩んでお

られる姿を見るたびに、子どもの仕事を生かして何かできないかと思案していたのです。その結果、ひらめいたのがこの多機能デニムだったというわけです。

高木(秀史) 販売開始が今年八月でまだ日は浅いのですが、自治体からの問い合わせも相次いでいます。現在特許出願中で、高木ソーイング(有)のオリジナル商品として販売に力を入れていきたいと思っています。

阿藤 素晴らしい多機能デニムの普及を私も見守りたいと思います。それでは、最後に二人の今後の夢をお聞かせ下さい。

高木 これは余談ですが、今年孫が中四国地方でただ一人、難関を突破して宝塚音楽学校に合格しました。その成長を楽しみしながら、より一層皆様のお役に立てるデニム製品を提案していきたいですね。

高木(秀史) 縫製の技術と伝統を社会に還元できるようにこれからも精進致します。

阿藤 どこか夢のある防災グッズに心が安らぎました。ますますのご発展を期待しています。本日はありがとうございました。

① INFORMATION



『マルチファンクデニム』を体験!

